

◆取組のポイント

*以下、学校名を西中と表記

- 校内体制がよく整備され、学年間、教科間での共通理解が図られた。
- 職員の研修を充実させることで、教師としての資質の向上にもつなげた。
- 学習習慣の育成・家庭学習の充実に力を入れていた。
- 環境の整備に力を入れ、生徒の学びたいという気持ちに応えている。それが、教師に対する信頼に結びついた。

◆学校課題との関連

- 研究主題：自ら学び考える生徒の育成
- 研究仮説：生徒の学習意欲を高めながら、一人一人の生徒に基礎的・基本的な内容を教え考えさせる授業を行うことで「自ら学び考える生徒」を育成できるであろう。
- 研究の組織：授業研究部、学力向上部、調査・研修部の3つの部を組織した。

仮説の検証のために、3つの部を中心にして研究に取り組みました。

〔授業研究部〕

- 学習意欲を高めるための工夫の共有
- 研究授業の実践
- 学年部会での学習事項の情報共有
- 開かれた授業の実践

〔学力向上部〕

- 主体的な学習態度の育成
(学習習慣の確立)
- 学びたくなる環境作り
- 家庭学習の習慣化

〔調査・研修部〕

- 学習に関するアンケート分析と課題の提案
- 全国学力・学習状況調査の分析と課題の提案
- 職員研修の充実

◆第1回アンケート結果及び実践の方向性

学校全体の結果

安心して学べる環境	知的好奇心	有能さへの欲求	向社会的欲求	おもしろさと楽しさ	有能感	充実感
2.79	2.69	3.43	3.48	2.78	1.98	3.18

情報収集	自発学習	挑戦行動	深い思考	独立達成	協同学習
2.62	2.72	2.57	2.80	2.81	2.79

数値が上がった学級の担任、学年主任への聞き取りをもとに、3つの部会ごとに事例を紹介します。

(1) 授業研究部の取組

授業研究部は、お互いの授業を見合う開かれた授業の実践を推進しています。そのことで得た気付きや同僚の工夫などを参考にして、それぞれの教員が自分の授業改善に取り組んでいます。その取組の中から、いくつかを紹介します。

学習課題を工夫する

事例1 社会科 3年 「模擬裁判をやってみよう」

裁判員制度の学習では、出てくる司法用語や概念が難しいため、教師の説明だけではイメージをつかみにくいと思われます。そこで、生徒に裁判のイメージをもたせ理解を深めさせることをねらい、裁判の一部を模擬体験させることにしました。

授業のねらい	裁判官、検察官、弁護士、裁判員などの具体的な働きを通して、法に基づく公正な裁判によって人権が守られていることを理解させる。
授業の概要	1 現在の裁判所について学習した後で、裁判員制度の概要を知らせる。 2 シナリオを配付し、事件の概要を説明し、役割分担をする。 3 模擬裁判を行う。 4 判決を考える。 5 裁判員制度による司法への参加の仕方について考える。

模擬体験を取り入れた授業（深い思考）

授業では、指導者の用意した模擬裁判のシナリオを基に、刑事裁判の論告求刑の場面でロールプレイを行いました。そして、それぞれが裁判員の立場であったと仮定して、判決とその理由を考えさせました。

【ワークシートの一部】

<ワークⅡ> 裁判員として裁判にかかわることを、あなたはどのように思いますか。

判決を出すのは難しい間違っただけを出してはいけないので、中途半端な気持ちでやってはいけないと思う。

<ワークⅡ> 裁判員として裁判にかかわることを、あなたはどのように思いますか。

迷っています。たぶん死刑とかの判決が出たら、耐えられないかなと思います。でも国民が裁判にかかわることでいろいろな意見が出てくるので、いいと思います。

生徒たちは模擬体験を基にして、実感を伴った感想を記していました。

この事例のように、体験的な学習活動を取り入れるなど、課題や学習活動を工夫し、主体的に判断する場面を設定することで、表面的な理解ではなく、深く考えさせることが可能となります。

事例2 数学 3年 「二次方程式の利用」

数学の学習では、基本的な内容を繰り返し学習させ基礎を定着させることが大切です。

しかし、それだけでは単調な学習になってしまうので、発展的な問題にも取り組ませる場面を意図的に設定しています。今回の授業では、自然数の性質や二次方程式など既習の学習を生かして取り組める課題を設定しました。

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自然数の和を求める方法を考えようとする。 ・自然数の性質を利用して、1からnまでの自然数の和を求めることができる。 ・2次方程式を用いて与えられた1からnまでの自然数の和からnの値を求めることができる。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習内容の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【課題】 1からnまでの自然数の和が666のとき、2次方程式を利用してnの値を求めよう。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 2 考え方の原理を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考えたり友達と相談したりして問題解決のために、整数の性質を用いて求めるよう助言する。 3 課題を解決する。 4 類題を解く。 5 まとめ

発展的な問題への挑戦（挑戦学習）

単に難しい課題を与えただけでは、抵抗感を示す生徒も多いと思われます。そこで考え方の原理を理解させる部分を重視し、友達と相談する時間を設けたり、助言し合ったりするようにしました。その結果、生徒は、難しい課題にもかかわらず、その解決に向けて熱心に問題に取り組むことができました。

基礎・基本の定着に加えて、発展的な学習に取り組ませることも必要なことです。課題の与え方を工夫することで、難しい課題に挑戦しようという気持ちが高まります。また、できたときには「自分の力で解けた」という自信をもつことができ、学習に対する興味や関心を高めることにつながります。

【難しい課題に取り組んでいる様子】



事例3 英語 2年 「How can we find out?」

英語の学習では、基本例文を反復して正確に覚えることが大切です。しかし、例文が生徒の実生活と離れていると形式的な学習になり、身に付かないこともあります。そこで、表現意欲を高めることをねらって、この単元では生徒にとって身近な題材を取り上げました。

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・文の構造を理解し、その例文の意味を理解できる。 ・比較級を含む文の内容を理解し、自然な英文を作ることができる。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の復習 2 比較級の文の構造についての説明 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって身近な題材を取り上げ、興味・関心を高めながら、比較級の構文・意味・使い方を理解させる。 3 グループ学習で、ばらばらになった語句を並び替えて、文を完成する。 4 完成した英文を書き取り、日本語訳をする。

日常生活と関連させた題材を取り入れた授業（知的好奇心）

【学び合いの様子1】



【学び合いの様子2】



授業では、アニメのキャラクターや、動物、有名人など、生徒にとって親しみやすい題材を視覚的に提示できるよう準備しました。

生徒にとって身近な題材を取り上げたことで、練習する声が大きくなり、いろいろな例文をいくつも作り、友だちと発表する姿が見られました。その後のグループ活動でも、互いに教え合いながら、比較級の文づくりに取り組んでいました。

相互に学び合う場を多く設定する

事例4 音楽 2年 「混声合唱の豊かな響きを味わおう」

合唱コンクールの発表に向けて、2学期には各学年とも混声合唱の学習を行っています。指導に当たっては、各パートの練習を中心として、生徒が相互に課題や気付きを出し合う場面を多く設定しました。

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の意味や情景を感じ取りながら、曲想表現を工夫することができる。 ・ピアノ、指揮者ととも一体感のある演奏を工夫することができる。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の学習内容の確認 2 発声練習等 3 各パートの課題の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・各パートによる課題のチェック ・不安箇所の確認 4 伴奏との合わせ

	<ul style="list-style-type: none"> ・録音したものを聴き、更に改善点を見つけさせる。
5	<p>本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表で達成感や感動を味わえるようにアドバイスをする。

合唱の発表を目指した生徒による教え合い（協同学習、充実感）

授業では、各学級ともパート練習や全体練習など、指揮者やパートリーダーなどを中心に、改善点や練習の方針などを確認し合いながら練習に取り組む姿が見られました。教師はそうした取組を認めつつ、向上のためのポイントをアドバイスしたり、励ましたりと受容的な態度で接しました。特に、学習の伸びを認め、ほめることを意識して行いました。

発表会では、各学級とも練習の成果を来場者の前で堂々と発揮することができました。

題材のまとめでは、合唱コンクールについて、指導者の示した観点に沿った自己評価と自由記述による振り返りをさせました。

【生徒による振り返り】

当日、リハーサルをやり、本番は明るくさわやかにということに注意して歌いました。「〇〇（題名）」では、練習して分かったこと、気づいたことを直して歌えたのでよかったなあと思いました。ハーモニー実行委員さんやパートリーダーさん達もすごくがんばってくれたのでうれしいです。伴奏者さん、指揮者さんにも感謝です。

△組の団結力がより深まってよかったなあと思いました。来年もこのクラスのこのメンバーでやりたいです。（2年）

問題点はいくつもありました。分からなくなってしまうときは家で練習し、楽譜を読み問題点を一つずつ、つぶしていきました。つぶせなかった点もありましたが、今回は全力を尽くしました。とにかく大変でした。クラスの中でも、みんなで必死に音取りして、みんなで悪い所を話し合ったりしてがんばりました。途中でケンカも少々ありましたが、最後には全員が心をつにして（歌い）、団結の大切さを学びました。みんなで歌えて、今までで一番楽しかったです。（2年）

この振り返りカードからも、生徒が課題意識をもって学習活動に取り組んでいたこと、協力し合って発表したことにより充実感をもったこと、学級の団結力が強まったことなどが読み取れます。

合唱コンクール以後、「授業の雰囲気以前にも増して明るくなった」「前向きになった」という声が教師の間から聞かれるようになりました。学級の人間関係は、学習に向かう雰囲気づくりに大きく影響を与えます。学習のねらいの達成を目指しつつ、学び合い活動などを積極的に取り入れていくこと、充実感が味わえるように支援していくことが大切であることが分かります。

学習状況について情報を共有する

日常的な情報交換

西中では、日頃から教員が、積極的に情報交換をしています。生徒指導についてはもちろん、教科についての情報も共有することにより、教科の枠を超えた授業研究がすすめられています。

また、生徒の学習意欲を高めるために、個々の生徒の授業に対する取組を知らせ合うことを意識的に行っています。休み時間や放課後に生徒のよいところを伝え合う会話が日常的に交わされています。

そうした生徒に関する情報は、生徒に対する多面的な理解に役立つとともに、指導の充実につながっています。

(2) 学力向上部の取組

学力向上部では、「主体的な学習態度の育成」「学びたくなる環境作り」「家庭学習の習慣化」を柱として、特色ある取組を行っています。それぞれの柱に関する取組について紹介します。

学習習慣を確立する

目指す生徒の姿を共有（安心して学べる環境）

西中では、主体的に学習する態度を身に付けさせるために、よい学習習慣を身に付けさせることを重視しています。

教職員が同じ歩調で指導に当たるために、学年部会や打合せなどを利用し、学年が同一歩調で指導に当たるための確認をしています。

例えば、今年度の第1学年では、卒業時には「規律を守り、自己表現ができる生徒」に育てるという目標を教職員が共有しています。

そのために、次の2点を1学年の重点目標に掲げ、指導に当たっています。

- 人の話をよく聞く。
- 日々の授業において、失敗や間違いを責めない。

この目標を学年朝会など、機会あるごとに生徒に伝えることで、目指す姿の共有化を図り、学びに向かう集団づくりに取り組んでいます。

規律というと窮屈なもの、守らねばならないものという印象もありますが、やはり学習を成立させるうえでは必要不可欠です。学びに向かう集団の中で学習し、学ぶ意欲が高まれば、自己表現の力が身に付き、それを発揮できるのではないかと考えています。

学びたくなる環境を整備する

自主的な学習への支援（自発学習、向社会的欲求）

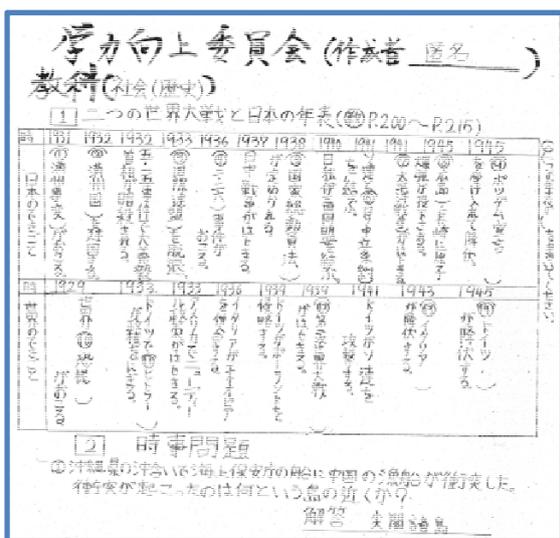
生徒の学習を支援するため、工夫のある取組が展開されています。例えば、生徒を取り巻く物理的な環境の整備にも力を入れています。教室や廊下の空きスペースに簡易な問題を掲示し、学習への意識を啓発しています。身近なところに授業で学習した問題があることは、学んだことの確認にもなり、学習内容の定着にもつながっています。

西中には、委員会活動として学力向上委員会があります。この委員会の活動の一つとして、各教科で学習した内容について、委員が学習プリントを作成しています。委員は問題づくりにも協力し合っており、他の生徒は、このプリントを活用しています。

多目的スペースを活用した学習会（自発学習）

2階廊下の多目的スペースには、進路に関する資料や問題集などを集めた書架が置かれています。昼休みにそのスペースを活用して、生徒たちの質問を受け付ける学習会を行っています。指導に当たるのは、3学年の教員が中心ですが、どの学年の生徒も気軽に利用しています。特に、2学期以降は、3年生の進路に対する意識が高まり、利用する生徒が多くなりました。

【学力向上委員会のプリントの一部】



【昼休み学習会の様子】



家庭学習の習慣化を支援する

家庭学習への支援（自発学習）

進路の選択に向けて、様々な形で学力の向上を目指した取組がなされています。

例えば、ある学級では、基本的な問題を中心とした家庭学習用の学習プリントを配布し、提出させています。提出させたプリントは、学級担任が確認をし、間違っただ所について簡潔な解説を書き加え、生徒に返却しています。先生の励ましのコメントが添えられており、生徒に好評です。

毎日繰り返すことで、生徒から問題の解き方について質問が出されるようになってきました。このように、生徒の学力向上に熱心に取り組む先生の姿は、生徒のやる気を高め、家庭学習の習慣作りによい影響を与えます。

（3）調査・研修部の取組

調査・研修部では、「学習に関するアンケート」「全国学力・学習状況調査」等、諸検査の分析や、参考図書の紹介を通して、各部に様々な提案をしています。

学習に関するアンケートを定期的実施する

アンケートの分析と活用

西中では、アンケートを6月と12月に実施しました。定期的実施し、生徒の学習意欲の変容をとらえることは、日々の指導について振り返るきっかけにもなります。

生徒の学習意欲は一定ではありません。全体的な傾向とともに、顕著な特徴を示す生徒などをとらえることで、個に対する指導の充実を図ることも可能になります。

【教師の声】

- ・生徒によって学習意欲の差が大きいため、課題解決の支援の仕方を工夫する必要があると感じた。
- ・ペアワークやグループ活動を取り入れ、協力して学ぶ機会を設けるようにした。
- ・結果を見て、これまで以上に個々の生徒に目を向けるようになった。
- ・思考が必要な発問を設定するように心がけた。
- ・長い間教師をしていると、授業の進め方に偏りが出てくると感じたので、様々な要素を意識していく必要を感じた。

中学校では、教科担任制がとられているため、アンケートの結果を自分の指導と関連付けてとらえにくいという側面があります。結果の分析は、一部の教員だけではなく多くの教員で行い、更なる改善に向けて協力できる体制を作ることを目指しています。

職員研修の充実

調査・研修部の実践内容の一つに、職員研修の充実があります。具体的には、「参考図書の紹介」や「学習意欲や言語活動に関する本の紹介」などを行っています。

調査・研修部に所属する教員が、分担して参考図書を読み、概要をA4版用紙1枚程度のレジュメにまとめ、校内研修の際に全員に説明するというものです。これは、生徒に主体的な学びを促すには、まず「教職員が意欲的に学ぶことが大切なのではないか」という考えのもとに実施されています。

夏休みには、次のような参考図書の紹介がありました。こうした紹介は、多くの教員から好評を得ています。また、併せて「学習に関するアンケート」の結果やデータの見方についても夏休みを利用して共有する機会を作っています。

【参考にした図書】

- ・志水宏吉 「『学力』を育てる」
- ・エドワード・L・デシ+リチャード・フラスト 「『人をのばす力』内発と自律のすすめ」
- ・辰野千尋 「科学的根拠で示す学習意欲を高める12の方法」
- ・波多野誼余夫・稲垣佳世子 「知的好奇心」

【調査・研究部のレポートの一部】

「学力」を育てる 志水宏吉 著

はじめに プロローグー私の「学び」との出会い 第1章 学力をどう捉えるかー「学力の樹」
第2章 子どもたちの学力はどうなっているか 第3章 学力の基礎はどう形づくられるかー家庭の役割
第4章 いかに基礎学力を保障するかー学校の役割 第5章 「学力の樹」をどう育てるかー地域の役割
エピローグー公立学校の未来を考える

●はじめに 学力とは「わかる力」と「つなぐ力」である。
「わかる」とは「分かる」であり、物事をちゃんと分けて捉えること。その分けられた個々の要素を関連づけて把握し、部分部分を「つなぐ」ことによって、ひとつの全体を理解する。
「わかる」は分析であり、「つなぐ」は総合である。この2つをバランスよく、子どもに身につけさせることこそ、学力を育てること。

●学力の樹
「三つの学力が文字通り一体となって、ひとつの学力の樹を形づくっている」p39
「その子の持ち味、その子の個性を的確に見極めることがきわめて重要。その子にあった働きかけその子にあった環境を用意することが大切」p42 「樹はグループで育つ」p42
「おそらく最も大事な部分は「根っこ」である。あるいは「根っこを育む」ことである p 47

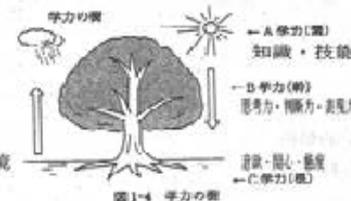


図1-4 学力の樹

これまでの取組について、学ぶ意欲を高める上で効果的であった事柄を質問したところ、次のような回答を得ました。

教師の振り返り

- ・授業を互いに見合うことは、生徒の多面的な理解につながると感じました。
- ・TTによる授業も可能な限り導入しました。結果として、授業を「見られる」ことに対する抵抗感がなくなり、積極的に授業を見合うようになりました。
- ・年間5回の計画訪問の授業研究会を予定している他、授業の中で意欲を高めるための働きかけを見合うことは、自分の授業を考えるきっかけになりました。

コラム

【教師の働きかけと児童生徒の変容との関係】

教師が重点的に働きかけた構成要素と、「学習に関するアンケート」における児童生徒の意欲の伸び率を示したものが、下のグラフです。

教師が「重点的に働きかけた」と回答した割合が高かった項目の中で、特に「知的好奇心」と「協同学習」に着目してみます。

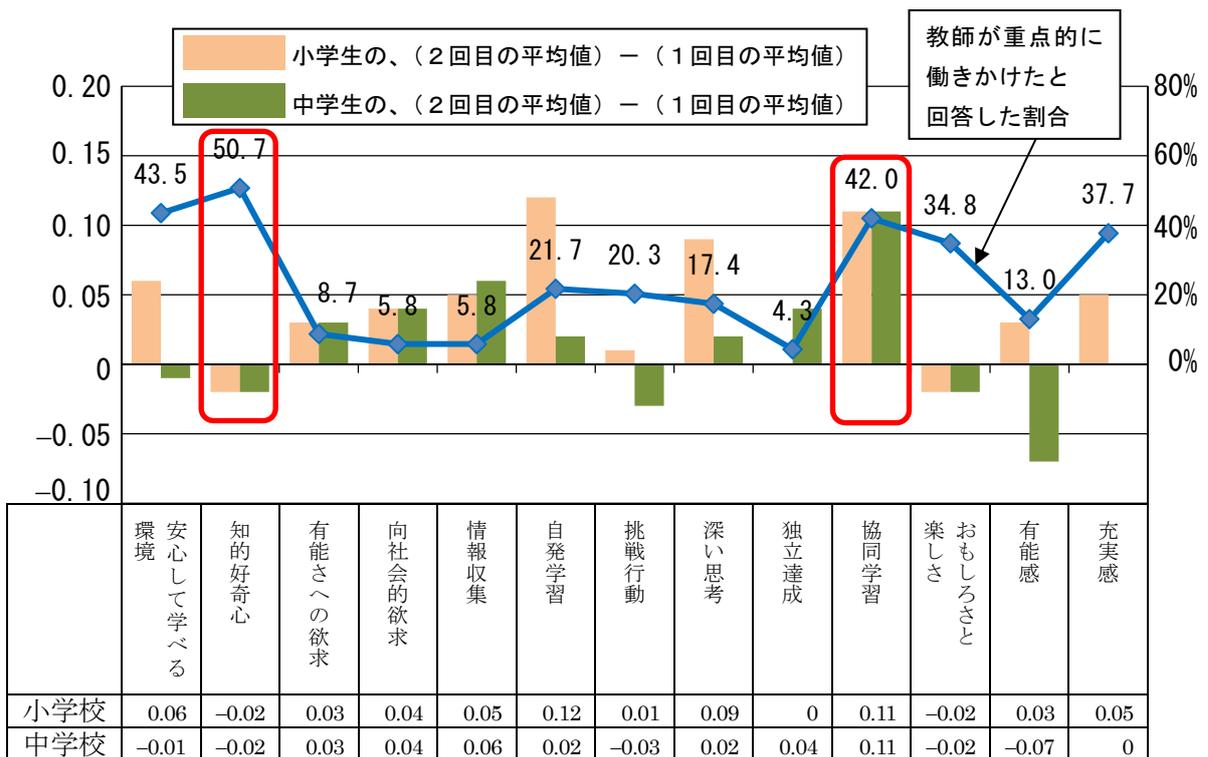
「協同学習」は、児童生徒の数値が高まっていることから、教師の働きかけが有効に働いていると考えられます。

一方、「知的好奇心」は、教師が働きかけたと回答した割合が最も高かったにも関わらず、児童生徒の数値は下がっています。

このことから、教師の働きかけが意欲の高まりにつながりやすい構成要素と、つながりにくい構成要素があることが分かります。

「知的好奇心」については、指導の工夫により「おもしろそうだ」と子どもが感じる場面は多々あります。しかし、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」といった「知的好奇心」にまで高めることは、容易ではないことが分かります。

伸びにくい要素については、根気強く継続的に働きかけをするとともに、働きかけ方についてもさらなる工夫が求められます。



◆調査概要

対象 協力校4校の教員 (小学校: 22名 中学校: 44名)

実施時期 平成22年11月(第2回の児童生徒のアンケートと同時期)

質問項目 「学ぶ意欲をはぐくむ構成要素の中で、重点的に働きかけたのはどの要素ですか。」